第２号

定価一年間３００円
組合員の購読料は
組合費に含む

ひやま

発行　檜山教職員組合
〒 043-0056　江差町字陣屋町 86-1
TEL 0139(52)0858　FAX (52)1490
発行責任者　高橋正人
E-mail: hiyamakyoso@proof.ocn.ne.jp

道教委通知

運動会・文化祭等での
勤務時間の割振り新設

小・中学校にも適用

道教委は、五月一日、「週休日の振り替えなどに係る勤務を命ずることができる時間帯の改正について」の通知を出しました。

＊　＊　＊

改正理由について道教委は、「現行の規定では、道立学校職員の週休日の振り替え等を行う場合、勤務することを命ずる必要がある日に割り振る勤務期間については、通常の勤務日の時間帯と異なる時間帯に割り振ることができないものであるが、これを「業務上特に必要であると認められる場合」に、通常の勤務日の時間帯と異なる時間帯に勤務時間の割り振りを可能とするため、所要の見直しを行うものである。」としています。

運動会では、決行の判断やグランド整備のために早朝出勤を求められる例は少なくない
（写真はイメージ）

◎具体例１　運動会（会場係として）

6時30分出勤の場合　　15時15分退勤

	昼60分休憩	

※7時間45分勤務、60分休憩

７時00分出勤の場合　　15時45分退勤

	昼60分休憩	

◎具体例２　文化祭（学級・学年大道具づくり）

８時15分出勤　　17時　19時退勤

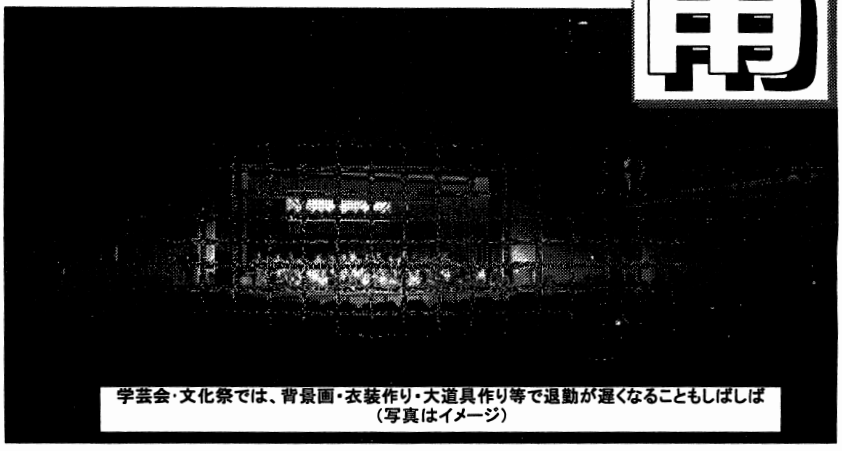
	休憩		大道具づくり

※２時間を勤務の割振り（4週のうちに）子どもが残ってなくてもOK

※詳細は道教委の通知を参照してください。

これは、「運動会の早朝勤務を労働基準法からみて、当然退勤時間の繰り上げが認められるべきであり、早朝勤務を余儀なくされ、その分を早退した教職員を勤務実態調査で炙り出し、給与返還を求めること自体おかしいのではないか」「早朝勤務をしている教職員の適正な勤務条件の改善がなければ、労働基準法違反であり、もう許されない」という要求に対して、改善されたものです。

超過勤務の問題は、教育の問題です。子どもたちの潤いのある人間的な教育を保障するために、教職員の人間的な有様が鋭く問われる観点から超勤問題の打開が目指される必要があります。それだけではなく、恒常的な超過勤務問題も切実です。さらなる改善がなされるよう引き続き関係者の努力が求められます。



学芸会・文化祭では、背景画・衣装作り・大道具作り等で退勤が遅くなることもしばしば
（写真はイメージ）

2012スタート！ 桧山教職員の集い

場を大切にしたい

桧山教職員の集いが四月二一日、桧山地域人材開発センター（まなびっく）を会場に開催されました。五〇名の教職員が参加し、講演を聴きながら、六つの分科会に分かれて交流しました。

大阪府秋桜高校教諭の浦田直樹氏と小山民氏が「学校ってどんなところであればいい？～みんながみんなを大事にする学校～」と題して講演し、子どもの成長と発達に深く関わった実践を報告しました。見えない傷を負った子どもたちが、周りの人の力ややさしさを借りながら、自信や喜びを「学校」で回復していく姿が語られました。人に大切にされたという体験が、子どもの成長に欠かせないということ、そして、子どもの発達の可能性などがじわりと伝わり、会場は感動と共感に包まれました。

（講演内容は別掲）

ダンス・授業などの実技講座好評

表現活動（ダンス）、模擬授業などの講座では、具体的な実践を学ぶ場となりました。思春期、特別支援教育、養護教諭、事務職員の分野に分かれて行われた分科会では、子どもの実態や日頃の取り組み、学校と職場の実情と課題などが具体的に交流されました。参加者からは、「来るまで億劫だったけど、やっぱりこういう集まる場って必要だね」「ダンス、すぐ運動会で使います」「自分の実践を見つめ直すいいきっかけになった」などの感想が聞かれました。

講演「学校って…」に感銘

学校ってどんなところであればいい？ ～みんながみんなを大事にする学校～

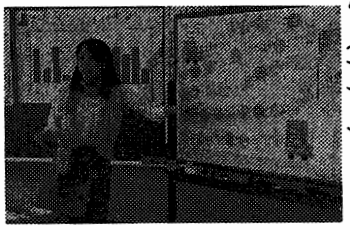
浦田直樹氏と小山民氏の講演内容を連載で紹介します。

はじめに

秋桜高校は、小さな学校であるけど、私たちの学校の教職員だけでつくっているのではなく、このような研究会で出会った多くの仲間と共につくっている気持ちで創り上げている学校です。

大阪の私学は、過度の生徒獲得競争で、子ども達を取り合いしている状況です。その中であえいでいる子ども達が多くいます。そんな中、楽しくなければ学校じゃないということで出来た学校が秋桜高校です。

植物の種は、種の時では、将来どんなきれいな花を咲かせるかは分からない。育てて花が開いて初めて、こんなきれいな花だったのかと思うことがあります。この学校では、子ども達と過ごす中で、そういう思いをたくさんしてきました。子ども達と、「こんな風にやれば、こんな風にステキに育つのか」という経験を今回、実践として持って来ました。（つづく）



「人っていいな」を実感できるよう

佐藤亮樹さん（厚沢部小）

「人との関わり」どこの学校でも大切にしていきたいものですね。そのためには、職員が本当に人との関わりを大切にしていく必要があるし、人を好きな集団でありたい。その一員として自分も少しでも力になれたら…と思うことができた講演でした。人と関わることを苦手としている子どもたちが変わっていく様子が伝わり、学ばせられました。

講師のお二人が同席された分科会（思春期の子どもたち）に参加し、直にお話ができたことも、とても良かったです。

国語の学習の「短所」を三つ挙げ、それを肯定的に捉えていく方法を教えていただき、勉強になりました。自分が以前、少しだけ学んだカウンセリング「ブリーフセラピー」とも似ている部分があるかなあと、考えていました。とても具体的なアドバイスをいただけて幸運でした。さっそく、教室で実践してみようと思います。

子どもたちが喜びを感じ、「人っていいな」と感じながら成長していける場を提供できるよう心がけていきます。